

※接種前に必ずお読みください

RSウイルス感染症の定期予防接種（母子免疫ワクチン）説明書

1. RSウイルス感染症とは

RSウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRSウイルス感染症発生数は12万人～18万人であり、3万人～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

接触・飛沫感染により感染が広がるため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

2. 接種対象となる方

接種時点で妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方

※過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことのある方も対象です。

3. 母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンとして、組換えRSウイルスワクチン（ファイザー社のアブリスボ）があります。

接種回数・方法	妊娠ごとに1回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	妊娠28週0日から36週6日までの間に1回接種。 ※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は、早めに医師に相談してください。
接種に注意が必要な方	<ul style="list-style-type: none"> ・接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方 ・筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方 ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方 ・予防接種を受けて2日以内に発熱や全身発疹などのアレルギー症状があった方 ・けいれんを起こしたことがある方 ・免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 ・組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方
接種できない方	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかな発熱（通常37.5℃以上）を呈している方 ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方 ・過去に組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ）の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方

4. RS ウイルスワクチンの効果（母子免疫ワクチンの効果）

RS ウイルスに感染したことによる医療受診	生後 90 日時点	生後 180 日時点
下気道感染の受診	6 割程度の予防効果	5 割程度の予防効果
重症下気道感染（※）の受診	8 割程度の予防効果	7 割程度の予防効果

※医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

5. RS ウイルスワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認における臨床試験では、妊娠高血圧症候群の発症リスクは増加しませんでした。海外の一部の報告では、発症リスクが増加したという報告はあっていますが、ワクチン接種とは別の要因が影響した可能性があることから、解釈には注意が必要とされています。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	10%以上	10%未満	頻度不明
主な副反応	疼痛*（40.6%）、頭痛（31.0%）、 筋肉痛（26.5%）	紅斑*、腫脹*	発疹、蕁麻疹、ショック、 アナフィラキシー

*ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より厚労省にて作成

6. 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日咳のワクチン（三種混合ワクチンなど）との同時接種では、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があるため、接種間隔等については医師と相談してください。

7. 接種を受けた後の注意点

- ・接種後は、30分程度は安静にしてください。当日は過度な運動は控えましょう。
- ・体調に異常を感じた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ・注射した部位は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。

8. 里帰り出産等で、県外での接種を予定している場合

郡山市民が福島県内で接種をする場合の接種料金は無料ですが、福島県外で接種する場合は、事前に市から依頼書の交付を受け、一旦自己負担でお支払いいただく必要があります。接種後に手続きをすることで払い戻し（※上限金額あり）が可能です。詳しくは市のウェブサイトをご確認ください。

9. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種では、一時的な発熱や接種部位の腫れ・痛みなどの、比較的良好に起こる副反応以外にも、副反応により重篤な健康被害が生じることがあります。極めてまれではありますが、予防接種により重篤な健康被害が発生し、医療機関での治療が必要になったり、障がいが残ったりした場合のために、法律で、健康被害の治療に要した医療費等の給付を行う救済制度が設けられています。救済制度を利用するためには、国の認定を受ける必要があります。

副反応と思われる症状が強かったり、長く続く場合は、まずは接種医に相談し、必要時、医師の診察を受けましょう。健康被害救済制度の申請を検討される場合には、市のウェブサイトをご確認ください。

【問合せ先】

郡山市保健所保健・感染症課 感染症・予防接種係
〒963-8024 郡山市朝日二丁目15-1
TEL 024-924-2163 FAX 024-934-2960



〈市ウェブサイト〉



この説明書は、厚生労働省「RSウイルス感染症の定期接種（母子免疫ワクチン）についての説明書」等より抜粋しています。